

平成22年度茨城県立猿島高等学校自己評価表

別紙様式2

目指す 学校像	(ア) 一人一人の生徒を大切に、きめの細かい指導を行う学校。 (イ) 一人一人の個性を伸ばし、自己実現を図る学校。 (ウ) 地域に開かれ、社会に貢献する学校。 (エ) よりよい自然環境、生活環境に配慮する学校。					
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点的目標	達成状況		
学力に関しては、ティームティーチングや習熟度別学習を取り入れたきめ細かな教育活動を通して基礎学力の向上に努めたい。授業参観などの内部研修を充実し、分かる授業の工夫を図りたい。	ア 基礎学力の向上を図る。	①生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫により、各教科・科目の興味・関心を高めるよう努める。 ②ティームティーチングや習熟度別授業の充実を図る。	B			
スクールカウンセラーを年間を通して活用し、不登校や自虐的傾向の生徒などのフォローにあたりたい。また、交通事故防止に努め、公衆道徳やマナーの充実を図りたい。	イ 基本的な生活習慣の確立を図る。 ウ 教育相談の充実を図る。	③規律ある学校生活を送るため、ホームルーム活動や学年集会、学校行事等を通して、正しい判断による自己表現力と豊かな人間関係の醸成を図る。 ④心の健康を大切に、生徒の心の悩みを解決するため、教育相談の充実を図る。	A B			
部活動では参加生徒が少ないので、活性化を図り、結果を残せるよう一層の努力と工夫を重ねたい。	エ 特別活動の活性化を図る。	⑤部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるように顧問教師と部員及び部員相互の望ましい人間関係の醸成に努め、部活動の活性化を図る。 ⑥HR活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。	B			
先進農家体験実習や建設現場見学・実習を通して、望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。公開講座ジョイ猿島として、食品加工講座・コンテナガーデニング講座・フラワーアレンジメント講座等を開設し、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼確保に努めた。	オ 進路指導の充実を図る。 カ 特色ある施設・設備を生かした地域との連携交流を図る。	⑦人間としての在り方生き方を学び、進路意識を高める。 ⑧農業実習、建設現場等でのインターンシップを通し、望ましい職業観や勤労観を養成し、生徒の進路意識の高揚に努める。 ⑨農業関連学科特有の施設・設備を最大限に生かして、食の安全安心等に係る、特色ある開放講座や体験講座を開設し、地域との連携・交流に努め、地域に貢献するとともに、地域からの信頼を確保する。	A A			
評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題	
教 務	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。	⑨	A	A	・TTや習熟度別学習に力を入れたきめ細かな教育に努める。 ・新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成。 ・総合学科の特色を活かした体験学習の在り方を検討する。
		生徒の多様な進路に応じた教育課程の編成を行う。	①②⑧	A		
		3年間を通した到達目標・指導計画の確立を図る。	①⑦	A		
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質的充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。	③⑥	A	A	・教科内填補や自習などの体制を整える。 ・授業終始時間の厳守に努める。 ・均整の取れた授業時間の確保に努める。
		授業終始時刻の厳守に努める。	①③	B		
		出張・年休等における授業の確保(振替)に努める。	①	A		
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	各教科と連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。	①②	B	B	・分かる授業の実践と創意工夫ができるよう研究授業を実施する。 ・授業見学をとおして指導技術の向上に努める。 ・生徒に定期的に課題を与え自宅学習時間の確保と習慣を身に付けさせる。
		分かる授業の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。	①②	B		
	学科・系列の特色を生かし、魅力ある授業及び体験学習を展開し、学習意欲の向上を図る。	学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。	①②	B	B	・資格取得の充実を図り、学習意欲を高める。 ・放課後や長期休業中に補習を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・課外授業を行い、生徒ひとりひとりの進路実現を目指す。
		進路実現のため資格取得などの具体的目標を設定し、学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。	①②	A		
職員研修を推進し、資質の向上を図る。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。	①	A	A	・職員の要望にあった研修会の実施と情報の共有化に努める。 ・情報機器を活用した授業のための研修会を行う。	
	研修の成果や情報を教員間で共有できるように努める。	①	A			

生徒指導	基本的生活習慣の確立をはかる。	週番活動並びにさわやかマナーアップ運動を展開し、正門立哨指導であいさつの励行に努める。	③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一時的な指導で終わることなく、継続した指導を実施する。 ・服装容儀の指導体制の整備に努める。
		服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。	③	B		
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を春・秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日に実施し、事故防止に努める。	③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通立哨の際の立哨場所の検討。 ・自転車点検を徹底し、継続指導に努める。 ・原付通学者に対して専門家の指導を増やし、運転技術の向上を図り、事故防止に努める。
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。	③	B		
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認並びに運転技術の向上に努める。	③	A		
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。	③	A		
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。	④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に関する研修会を実施し、教育相談に対する知見を深める。 ・スクールカウンセラーを利用しないで、重症化している生徒のチェック機能の整備に努める。
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。	④	A		
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。	④	A		
		いじめ問題対策研修会を行い、未然防止や指導方法の認識を深める。	④	B		
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。	③④	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内外の巡回活動体制の整備、徹底を図り、問題行動の抑止力とする。 ・学校のルールについてのガイダンスを徹底し、問題行動の抑止力とする。
		校外巡回指導を行い、地域関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。	③④	A		
ケータイ・ネット安全利用についての講習会を開催し、家庭での携帯電話利用に関するルールづくりやフィルタリングの利用促進を図る。		③④	B			
不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるよう努める。		③④	A			
進路指導	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	教育活動全体を通したガイダンス機能の充実。	⑦	A	A	
	望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する能力や態度を育成する指導の工夫。	⑦⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの時期の検討。 ・就職先の選考方法の検討。
		インターンシップの充実を図り、職業選択や職業適性について考えさせる機会を与える。	⑦⑧			
		進路相談の計画的・継続的な実施。	⑦	A		
進路に対する理解と協力を得るための保護者への啓発。	保護者への継続的な進路啓発活動の実施。	⑦	B	B	・進路手引きを通し、保護者の理解を得る。	
保健厚生	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。	③④	A	A	医療大学との連携を深め性教育の充実を図りたい。
		教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する	①③	A		
	校内環境の整備・充実を図る。	委員会の活動内容を考え、環境美化活動の活性化に努める。	③⑥	B	B	清掃用具等の整備を充実させ自主性を育てたい。
		アルミ缶ゴミ分別を徹底できるように工夫する。	③	B		
		校内美化日を計画し、学習環境を整備する。	③	B		
	安全対策の強化に努める。	緊急対策マニュアルを周知徹底する。	③④	B	B	マンネリ化した防災訓練に新しい体験を取り入れたい。
危機意識を高め、安全確保につながるよう避難訓練の内容を工夫する。		③	B			

図 書	図書室の資料の充実に努める。	幅広い蔵書構成を考えながら、資料の充実を図る。 職員・生徒の希望図書を購入する。	③ ⑥	A A	A	図書室利用時のマナー向上に努める。 図書の貸出手続きを周知徹底し、紛失図書がないようにする。
	視聴覚資料の収集・保管に努める。	授業や学校行事等で使用するビデオ・DVD等を購入し整理する。	⑥	B	B	
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	校内読書感想文コンクールを実施する。 上記コンクール入選者の表彰および入選作品集を作成する。	① ①	A A	A	
	図書委員会活動の活性化に努める。	カウンター作業や書架の整理をする。 各種統計を作成する。	⑥ ⑥	A A	A	
	図書室の広報活動に取り組む。	図書館報,図書館だよりを発行する。 新規購入図書や各種統計を掲示する。	⑥ ⑥	A A	A	
	渉 外	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	各行事に工夫を加え、参加保護者の意欲向上をはかる。	⑨	A	
継続的な重点行事を掲げその充実を図る。		PTA支部活動の充実を図り、その活動の支援を行う。	⑨	B	A	支部役員とその組織を活かした効率的な運営を考えたい。
教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成と成長を支援する。		PTA活動を活発化させ、PTA総会や支部PTA、PTAだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。	⑨	A		評議員会や支部会等において情報を共有し相互理解をすすめ生徒の健全育成をはかりたい。
特別活動	生徒会活動を活発に行うようにする。	「さわやかマナーアップ」運動の取り組みとして、朝の立哨指導に参加させる。 学校行事の運営に積極的に携わる。	③⑥ ③⑥	A A	A	生徒が主体的に活動できるように支援する。
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	薫風祭のポスターを近隣中学校や商店街に生徒を通して配布する。 校外のボランティア・体験学習に積極的に参加させる。	③ ③	A B	B	アルミ缶・エコキャップ回収などのボランティア活動を継続させる。
	部活の推進をはかる。	各々が、年間を通して継続的に活動できるようにする。	⑤	B	B	少人数でも活動できる体制を作る。
農 場	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	現場実習等でのインターンシップを通して望ましい勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感じさせる。	⑦⑧ ⑨	A	A	インターンシップ受け入れ先の開拓と確保。
	施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	圃場及び実験室を充実させ、生徒一人一人の能力に応じた分かりやすい・魅力ある実験・実習を通し、興味関心を高め、基礎的な知識・技術を習得させる。	①⑨	A	A	総合学科農業系列(生物資源、環境デザイン)の系統的授業の展開の充実
	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。	系統的プロジェクト学習の充実した展開をはかる。また、課題研究は、生徒一人一人の能力に応じた適切な指導に留意する。資格取得希望者の拡大を図る。	①⑧ ⑨	B	B	プロジェクト学習のさらなる充実。 総合学科における農業クラブ活動の検討と充実、活力ある生徒の育成。
事 務	会計の効率的で適正な執行に努める。	教育活動が円滑に進められるよう適時・効果的な予算執行に努め 学年・担任との連携を深め、前年度分滞納授業料の早期回収を図る。 節電・節水に努め光熱水費予算の削減を図る。		A B B	B	・授業料の前年度滞納分が未納であり、家庭訪問を継続して回収に努める。学校徴収金口座振替納入率は約70%で前年と同程度であった。 ・電気、水道使用量は前年並みを維持できた。デマンド装置を活用し節電への取り組みを継続していく。 ・校舎等定期点検結果に基づき計画的に改修を行い施設設備の安全性を確保する。
	開かれた学校づくりをめざす。	来校者や電話の接遇向上のため丁寧な対応に心がける。 学校行事等の広報に努める。		A A	A	
	施設、設備等の適正な管理に努める。	安全な教育環境を保持するため施設・設備を適切に管理する。	⑥⑨	A	A	
				A	A	

1年次	問題行動を流さず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、充実しけじめのある学校生活を送らせる。	③	A	A	・継続的な指導が必要である。
		正しい服装・頭髪・言葉遣い等について、生徒に繰り返し指導する。	③	A		
	一人ひとりを大事にし、自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	ホームルーム、面談等を通して生徒理解に努め、保護者の協力を得られるよう努める。	③④ ⑥⑦	A	A	・自ら設定した進路を実現するために、学力向上及び現実的な選択を再考させる必要がある。
		進路講演会や見学会、「産業社会と人間」の授業を通して、自己理解を深められるように支援する。	⑦	A		
資格取得・部活動を推進し、学校生活を充実させる。	資格取得を推進し、日頃の学習を充実させ、将来に対して自信を持たせる。	⑤⑦	B	B	・ワープロ検定、英検、漢検などをより効果的に実施し、学習意欲向上に資する。	
2年次	基礎学力養成の定着に取り組むと共に、進学希望者の学力の伸長を図る。	計画的に小テストを実施し、学習に向かう契機とする。	①	B	B	・学力向上のために継続指導をするが、事前指導に工夫を持たせる必要がある。また、平常課外のありかたを検討する必要がある。
		長期休業中に課外授業を設定し、進学希望者の学力養成に対応する。	①	A		
	社会の一員としての規範意識を生徒に根付かせる。	正しい服装・頭髪・言葉遣い等について、生徒に繰り返し指導する。 保護者との連携を密にして生徒理解に努め、生徒に充実した生活を送らせる。	③ ③	B A	B	・学年全体での指導の継続をするが、指導後の生徒の状態が課題であり、家庭、学校、時にはカウンセラーとの密接な連携を図る。
進路意識の醸成を図る。	インターンシップや体験授業を通して、自己の進路について生徒に考えさせる。	⑦	B	B	・インターンシップの事前指導を充実させる。進路希望の変更や未定の者が多数いるので、進路決定のための指導に努める。	
3学年	問題行動を見過ごさず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	服装頭髪等の指導を徹底する。	③	A	B	生徒のほとんどが基本的な生活習慣とその重要性を認識することができるようになったが、一部生徒には課題が残った。
		時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、学校生活の充実と向上を図る。	③	B		
		ホームルーム、面談等を通して生徒理解に努め、保護者の協力を得ながらけじめのある生活を送れるよう指導する。	③④ ⑥	B		
	一人一人を大事にし、自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	教科担任や関係職員と生徒についての情報交換を積極的に行い、面談等を通して一人ひとりの長所を伸ばし、社会の一員としての態度を育成する。	①④ ⑦⑧	A	A	ほとんどの生徒は集団生活において、自分の役割を考え行動できるようになった。
進路実現のために、進路指導部と協力して必要な援助を積極的にを行い、努力し向上する姿勢を身につけさせる。	基礎学力を向上させ、進路決定に導く。	①⑦	B	B	進路については多くの生徒が重要性を認識し、粘り強く取り組み、ほとんどの生徒が決定したが、一部生徒・保護者は学校幹旋に関心を持つに至らなかった。	
	進路講演会や進路分野別ガイダンスなどの機会を通して、将来の生き方を考えさせることで、進路決定に全力を注ぐ。	⑥⑦ ⑧⑧				

国語科	国語を的確に理解する能力を育てる。	漢字力を養成するために、授業において計画的・段階的な指導を行う。	①	C	C	年間指導計画での位置づけを検討する。
	言語感覚を磨き、意思を伝える能力を育てる。	個々の生徒が、意見・感想を書くことができるような表現指導を行う。	①	C	C	年間指導計画での位置づけを検討する。
	思考力や考え方を深め、心情を豊かにする態度を育てる。	多くの作品に親しむことにより、多様な価値観に気づかせる。	①	B	B	取り扱う単元を検討する。
地歴・公民科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直して、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。	①	A	A	・引き続き生徒の実態把握と適切な指導に努める
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。	①	A		
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。	①	A	A	・生徒が自発的に復習できるように工夫する。・視聴覚教材の更なる充実を目指す。
		レジュメを配布し、生徒本人が学習内容を反復学習しやすいようにする。	①	B		
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。	①	A		
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。	①	A		
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	視聴覚教材の積極的な利用を通じて、ビジュアルな形での理解を図る。	①	B	A	・教科内での情報・意見交換を一層密にし、相互の研鑽・協力を強める。
		教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。	①	B		
		様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。 年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。	① ①	A A		
	数学科	基礎学力の定着を図る	基礎学力検査を利用して、理解度を把握し、不十分な生徒へは補習等を実施する。	①	B	B
選択科目で受講人数が少ない2年生、1クラスの生徒数が少ない3年生について、机間指導を増やし個に応じた対応を心がける。			①	A		
数学が分かる喜びを実感する授業への取り組みに努める		提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握するよう努める。	①	A	B	・生徒の学習状況をきめ細かく把握し、数学に対する興味関心、意欲の向上のため常に授業の工夫や改善を心掛ける。 ・チームティーチングでは、効果的な指導になるように事前準備を入念に行う。 ・数学検定合格率の向上、特に2次試験突破のために教科全体で計画的な指導にあたる。
		1年次のチームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。 数学検定に向け、計画的、段階的な指導を行う。	② ①	B B		
理科	知的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。	①	A	A	・3つの具体的な目標をバランスよく達成できるよう努力する。 ・観察・実験の充実を図り、それに伴う考察の時間を十分に取れるよう配慮する。 ・実験器具の充実を図る。
	科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	観察・実験を適切な時期に行い、かつ事前指導や考察の時間を十分に取るようにする。	①	B		
		生徒が自分の意見や考えを検証したり、発表したりできる機会を適宜設ける。	①	B		
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。 基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。	① ①	A A		

英語科	基礎的な能力を養う	基礎的な能力を養うため、音読指導に重点をおいた、生徒の興味・関心が引き出せるような分かりやすい授業の創意工夫に努める。	①	A	A	音読指導を実践した結果、生徒が授業に積極的に参加し、音読テストにも好結果をもたらしたので今後も継続して行う。	
	ALTを活用し、個に応じた指導を目指す。	ALTと協力し、習熟度別を併用した少人数授業を展開することで、個に応じたコミュニケーション能力の育成を目指す。	②	B	B	ALTの活用においては、指導や教材を工夫するとともに、習熟度別授業時間の確保に努める必要がある。	
	ティームティーチングの活用	ティームティーチングの授業では、教師相互間の連携を密にして、生徒1人ひとりのきめ細やかな指導が出来る授業を行う。	②	A	A	ティームティーチングの授業では、生徒ひとりひとりに目が届き、きめ細やかな指導ができたので、今後も継続して行う。	
家庭科	家庭生活へ積極的に参加する意欲・関心を養う。	社会の最小単位である「家庭」について興味・関心をもたせる。	①	A	A	・被服実習においては、生徒ひとりひとりの習熟度に応じた指導を目指す。 ・調理実習の時間の確保と内容の充実にも努める。 ・現代の社会に対応した、「家庭」「保育」「消費生活」「住生活」の知識を身につけさせる。	
		高齢者を自分の一生の問題として考えることができるとともに、同時代を生きる高齢者との交流が図れるように、高齢者の生活、高齢者の介護についての基礎的な知識を習得させる。	①	B			
		子どもを持つことの意義を考えるとともに、子どもの心身の発達、乳幼児の基本的な生活課題、子どもの保育、児童福祉についての基礎的な知識を習得させる。	①	A			
	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	⑧	B	B			
家庭経営の立場から家庭生活の充実向上を図る能力を育てる。	消費生活・住生活などに関する基礎的な知識を習得させ、一人の家庭人・社会人として自立した生活が送れるように指導する。 ひとりひとりの消費行動が、資源・環境問題と大きく関わりのあることを理解させる。	③	B	B			
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	体力トレーニングを実施し、生徒の体力向上に努める。	①	B	B	・体力トレーニングの充実と必修種目(水泳・持久走)の完全実施	
	生徒の体力に合わせ、運動時間の確保に努める。	①②	B				
	集団行動の充実を図る。	集合、整とん、列の増減、方向変換、挨拶等を継続的に指導する。	③	B	B	・集団行動の徹底	
	基本的な生活習慣の確立を図る。	健康の保持増進についての知識を学び、実践力の育成に努める。	①	B	B	・基本的な生活習慣の確立と実践力の育成	
芸術科	基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。	①	A	A	・創作の多様性とその可能性への理解を深める。 ・実用書の手本の充実を図り、実習時間を確保する。 ・検定合格率アップを図る学習時間の確保に努める。	
	感性と技術の向上を図る。	生徒が自主的に取り組む指導を図る。	②	B			
	魅力的な授業の展開を図る。	芸術における基礎・基本を身に付けさせ、感性を育てる。	①	B			B
	資格取得の充実を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。	②	B			B
情報科	情報機器の基礎的な知識と技術を高める。	中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに合った指導を行う。	①	A	A	基本的な情報機器活用の技能として、ワープロソフト・表計算ソフトの習得は概ね達成できた。次年度はそれに加えてプレゼンテーションソフトや画像処理ソフトの習得を目指したい。	
		実践的な実習を通して、基本的な情報機器活用の技能を習得させる。	①	A			
	情報を主体的に活用する態度および実践力を育てる。	情報通信ネットワークの適切な活用を積極的に取り入れる。	①	B	B	ネットワーク社会を具体的に捉え、主体的な活用を目指す。	
情報社会に参画する意欲の向上を図る。	情報モラルと情報セキュリティ意識の育成を目指す。	③	B	B	SNSサイト等は「対人のコミュニケーションである」という概念を定着させ、適切な参画を目指す。		
商業科	基礎・基本的な学力の向上を図る。	小テスト等を利用し、学習の理解度を把握し生徒の実態にあった指導を行う。	①	A	A	教材の更なる工夫を行い、分かりやすい授業展開をし、基礎・基本的な学力の向上を図る。	
	教材の工夫をし、分かりやすい授業展開に努める。	①	B				
	商業がわかる喜びを実感する授業に勤める。	身近な話題を取り組む授業展開に努め、学習内容への理解を深める。	①	B	B	学習内容の充実にも努め、理解できるようにする。	
資格取得を支援する。	課題提出を行い、理解度を確認し資格取得に向けた指導を展開する。 補習等を行い、検定に合格できる能力を養う。	①	A	A	資格取得に向け、意識の高揚を図り検定に合格できる能力を育成する。		

普通科	創意と工夫を加えた学習指導により基礎学習の向上に努めるとともに、一般教養を高めることに重点を置き、さらに進路指導を重視し、責任ある民主的な社会人を養成する。	基礎的・基本的事項を踏まえたユニークな授業を展開する。	①	B	B	わかりやすい授業の展開と一般常識の把握と理解に重点を置いて指導してきた。
		一般社会人として恥ずかしくないだけの最低限度の教養を身に付けさせる。	①	B		
		進路教育と結びつきを深めた学習内容の授業を展開する。	⑦	B		
		生徒の個性や能力に応じた学習指導を展開する。	①	A		
園芸科	園芸作物の栽培・加工及び幅広い活用に関する知識と技術を習得させる。	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。	①⑨	B	B	総合学科に適した内容を精選し引き継ぐ。
		施設設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用を図る。	①⑨	B		
	農業経営者及び食品、ヒューマンサービスなど農業関連業務に従事する者として必要な能力と態度を養う。	体験学習や資格取得を通して、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	①③ ⑦⑧	A	A	
緑地土木科	自然環境の保全や地域開発に関する知識と技術を習得させる。	自然環境の保全の必要性和地域開発の大切さを考えさせる。	⑧	B	B	自然環境への積極的な取り組みをおこない、環境体験を進めたい。
	造園に関する知識と技術を習得させる。	造園の歴史や諸外国の庭園の特徴を習得させる。	①	B	A	諸外国や歴史を考察しながら造園技能を高めたい。
		技能中心科目では実習中心におこない、基本的な技能を習得させる。	①	A		
	土木に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	距離測量や平板測量などの基本的な技能を習得させる。	①	B	B	基本となる測量技術を学習させ、確かな実技を修得させたい。
		実験や実習を充実して実践的な内容で実技が展開できるようにする。	①	B		
	造園に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	トレース検定受検、橋梁などの模型作成を行い創造力を高める。	⑧	A	A	造園学習や庭園の設計製作に取り組む。
		造園コースでは技能検定3級造園の学習に取り組ませる。	⑧	A		
	体験学習や資格取得をとおして、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	建設現場見学会により、建設業の魅力や役割を知る一助とする。	①	A	A	インターンシップ(現場実習)や資格取得等により勤労の大切さを学ばせたい。
		現場実習を通して、望ましい勤労観を養う。	⑧	B		
		資格取得を推進し、日頃の学習を充実させ、将来に対して自信を持たせる。	⑧	A		
施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	建設業の大切さを理解し、将来の職業に対する見通しと自信を持たせる。	①	A	B	限られた予算を効率的に活用し実験実習に活かしてゆく。	
	基本的な知識や技能を身につけさせるため施設設備を整える。	①	B			
	新しい系列展開のための施設設備・機材を充実させる。	①	B			
総合学科	総合学科の特性を生かし、個々の生徒に充実した高校生活を送らせる。	実験実習が適切に行えるよう、実験器具機材などの整備に努める。	①	B	A	履修科目の検討・見直しを引き続き行う。
		面談を複数回実施し、生徒の個性を把握する。	①	A		
		適宜、履修科目の検討や見直しをおこなう。	①	B		
		資格・検定等の精選を行い、生徒が取り組む環境の整備をおこなう。	①	A		
判定基準	A:大変良くできた B:良くできた C:やや不十分 D:不十分					

平成18～21年度の自己評価については、URL (<http://www.sashima-h.ed.jp/h○○nendojikohyoukahyou.pdf>) の○○部分の数字を変えてご覧下さい